

ドイツの地勢と気候

ドイツは9つの国と国境を接しています。チェコ、ポーランド、オーストリア、スイス、フランス、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、そしてデンマークです。バルト海と北海の海岸があるため、ドイツも部分的に海に面しています。バルト海には干潮満潮がありませんが、北海には日本と同様に干ばつや洪水が起こることがあります。バルト海には、リューゲン島というドイツ最大の島があります。ドイツは全域的に平らで、なだらかな丘があるぐらいですが、南部に行けばアルプスがあることもあり、高山地帯となります。中でも、ドイツとオーストリアの国境にあるツークシュピッツェの標高は2,962メートルでドイツ最高峰です。ドイツの河川は日本と比べて長いです。河川には、雪解け水や大雨で土地が蓄えた水を海まで運ぶ役割があります。洪水もしばしば起こります。1993年と1995年にはライン川で、2002年と2006年にはエルベ川で、また2010年にはオーダー川で、2013年にはエルベ川とドナウ川で大氾濫がありました。

湖が多いのもドイツの特徴で、アルプスの麓やメクレンブルク・フォアポンメルン州にとりわけ点在します。ドイツで最大かつ最深を誇る湖は、ドイツ南部、アルプスの麓のボーデン湖です。

ドイツにも地震はあります。ドイツ西部ライン地方のアイフェル高原とバイエルン北部の上部プファルツ地方は、特に地震で知られる地域です。ライン川に沿っても地震は起こります。地震があるところには温泉が付きもので、ドイツにも南ドイツに有名な温泉保養地バーデンバーデンがあります。しかし、ドイツの地震は小さいため、地震計で記録されるもの人間が体感して気がつくことは稀です。

夏は、日本のほうがドイツよりも遙かに湿度が高く、降雨量も多いです。亜熱帯気候と温暖湿潤気候にまたがって属する日本とは違って、ドイツが属するのは単一の気候帯であり、亜熱帯でもなく、年間を通しての気温の変化も大きくありません。年間平均気温は9.3℃です。